

令和6年度 葛飾特別支援学校 学校経営計画

令和6年4月1日
都立葛飾特別支援学校校長
村山 大介

I 目指す学校像

生徒一人一人の人権を尊重し、安全で安心して学べる環境の中、障害の状態等に応じた専門的な教育を行い、卒業後、地域社会の一員として自立し、社会参加していく生徒を育てる学校

II 中期目標と方策

近隣に就業技術科、職能開発科を有する特別支援学校がある本校は、地域型の知的障害特別支援学校高等部単独校として、生徒が支援を受けながら自己の力を活かし、社会で生活できるよう指導する学校づくりを目指す。葛飾特別支援学校の伝統ある生徒の主体的な活動や進路指導などを受け継ぎ、現在在籍する生徒の実態や規模等に合う形での再構築を行い、新たな葛飾特別支援学校を作りあげていく。

中期目標	中期目標達成の方策
1 生徒の人権が尊重され、安心・安全な学校づくりの推進	(1) 人権(多様性、共生)を尊重した教育の推進 (2) 安心・安全な教育環境
2 働く力や人と関わる力、生活していく力の育成	(3) 個々の教育的ニーズに対応する教科等の指導の充実 (4) 社会のルールやマナーを身に付ける指導の推進 (5) キャリア教育を踏まえ、自立と社会参加を見据えた進路指導の充実
3 学校を取り巻く状況や生徒の実態に応じた教育の実施	(6) 個に応じた教育の推進 (7) スポーツや文化活動の充実
4 保護者に信頼され、地域、関係機関等と連携する体制づくり	(8) 地域や関係機関と連携と開かれた学校 (9) 信頼される学校づくり
5 効果的・効率的な運営体制の構築	(10) 教職員の「ライフ・ワーク・バランス」の推進と「働き方改革」の実現 (11) 適切な学校経営及び予算執行

III 今年度の取組と方策

令和6年度学校経営計画作成にあたり、「5つの中期目標及び11の中期目標達成の方策」を基として、「24の教育活動の目標と62の重点方策」を示した。令和5年5月の新型コロナウイルス感染症5類移行後の制限のない生活、新しい生活様式、基本的な感染症予防を基盤に、安心安全な教育活動を展開していく。これまで本校が40年以上にわたり、培ってきた地域型知的障害特別支援学校高等部普通科の教育を引き続き力強く推進していく視点、社会自立に向けた支援への切り替えの視点、昨年度の学校評価アンケート等に寄せられた学校をさらにより良くしていくための改善の視点、家庭・地域と連携・協働したカリキュラムマネジメントの視点、高等部年代に必要なスポーツや文化を推進する「学校2020レガシー」の取組の視点、「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」の視点、都立学校発達障害教育推進エリアネットワークの推進の視点など、学校を取り巻く状況や環境の変化に対応した教育を行う視点で作成した。

今年度の教育活動の目標を実現するには、教職員が生徒の成長のために保護者との共通理解を図るとともに、学校が地域・関係機関からの期待に応えるために地域に根ざした教育活動を推進し協力を深めることが必要である。より良い葛飾特別支援学校を実現するため、チーム学校として教職員一丸となり、24の教育活動の目標と62の重点方策に取り組む。

II 中期目標と 中期目標達成の方策	III 今年度の取り組みと方策		
	教育活動の目標	重点方策	数値目標等
(1) 人権(多様性、共生)を尊重した教育の推進 (2) 安心・安全な教育環境	①生徒の人権が尊重され、自己肯定感や他者への理解など豊かな心を育む教育の推進	ア 自己肯定感・自尊感情の伸長や生徒同士が互いを思いやる気持ちの育成をねらいとした授業の実施	1 学級経営計画への記載 随時指導
		イ 生徒表彰規定による生徒表彰の推進	2 表彰年1回
	②体罰や不適切な指導及びいじめ根絶に向けた対策の徹底	ウ 生徒の人権尊重の取り組み「苗字+さん」付けでの呼称の統一	3 学校評価アンケート95%以上
		ア いじめの未然防止や早期発見・解決のための生徒アンケートと学級指導の実施	4 全校(学期1回のアンケート実施) 継続指導
	①生徒を守る防災・防犯対策の充実	イ 教職員が生徒の人権を大切に自己点検アンケートを実施	5 年2回実施と課題に対する聞き取りの実施
		ウ 生徒が適切な援助希望行動ができるように「SOSの出し方に関する教育」の実施	6 各学年(年1回実施)
		ア 地域と連携した災害時避難所の開設・運営や学校の体制作りの維持・充実	7 地域と連携した防災訓練への参加
		イ 犯罪防止策の着実な履行(不審者対応訓練、SNSの利用について等)	8 年3回以上、安全指導日の活用
		ウ 通学途上で被災した場合の避難及び東京マイ・タイムラインを活用した避難等、防災教育の推進	9 随時 宿泊防災訓練等を活用
		エ 危機管理マニュアルの理解と周知	10 教員研修年1回実施
②生徒が安全に活動できる学習環境の整備	ア 安全点検(教室等の環境チェック)と教員の安全に関する取組点検の実施、分析、改善	11 安全点検(毎月)、取組点検(年3回)	
	イ アレルギー対応、気道異物除去、AEDなど、命を救うための研修の実施、上級救命講習受講の奨励	12 年1回、上級救命講習受講者30%	
	ウ 熱中症予防対策を施し、生徒の体力等に応じた安全な体育的活動の実施	13 体育・部活動実施時	
(3) 個々の教育的ニーズに対応する教科等の指導の充実 (4) 社会のルールやマナーを身に付けるための指導の推進	①生徒の力を伸ばす各教科の充実	ア 令和6年度教育課程の変更点の検証と次年度の教育課程の確定	14 教育課程検討委員会の実施(月1回)
		イ シラバス(年間指導計画)の内容の実施、検証、及び教育活動の改善	15 教科会にて
	②作業学習の充実による職業教育の推進	ウ 「教員一人一授業」でチェックシートを活用した授業展開の検証と改善	16 社会自立を目指す視点での授業(6月～)、月1回(研究会)
		エ 生徒の学習の振り返りを活用した学習活動の充実	17 随時
	①社会のルールやマナーを身に付けるための指導の推進	ア 外部専門家による助言及び作業班会主導による作業学習の指導・内容の充実	18 随時
		イ 産業現場等に応じた、新たな作業内容の検討、展開	19 ベットメイキングの実施、カフェサービス等の充実
		ウ 「葛特作業学習行動指針」の検証と活用について検討	20 随時
		エ 作業製品の新規販路の開拓(都立学校、近隣学校、町会等への協力依頼)	21 随時
	②生徒の主体的な活動への支援	ア 学校生活ルールブックによる、身だしなみやSNS利用ルール等の提示と指導の徹底	22 安全指導内容作成(学期1回)、随時指導
		イ 登下校指導のための通学路及び電車・バス内の安全点検の実施	23 年5回 随時
ウ 生徒が考え、提案、決定し、行動する生徒会活動の充実		24 随時	
(5) キャリア教育を踏まえ、自立と社会参加を見据えた進路指導の充実	①生徒の可能性を引き出す現場実習の実施	ア 希望進路先への全生徒就労(3学年)	26 希望就労先の実現100% 企業就労 30%
		イ 「挑戦する」実習の意義を踏まえたトライアウト実習の実施(2学年)	27 70%生徒のトライアウト実習実施
	②生徒・保護者への進路情報提供と相談機能充実	ウ 教員がビジネスマナーの意義について理解を深め、身に付けるための研修の実施	28 年1回
		ア PTA進路懇談会などの機会を活用した、分かりやすい進路情報の提供	29 進路指導の手引き概要版の更新 PTA会議への進路担当の参加(年2回)
	(6) 個に応じた教育の推進	イ 進路相談日等による個別相談の充実	30 月1回開催(実施回数70回以上)
		ア 就労準備チェックシート等を活用した、根拠に基づく個別指導計画の作成と実践	31 教務、研修部によるアセスメントのミニ研修の実施
		イ 保護者への個別指導計画等の説明と共通理解を図る	32 学校評価アンケートによる評価90%以上
		ウ 学習指導要領の3観点による評価の実施(個別指導計画への表記)	33 年2回
ア 外部専門家、教員との連携強化による生徒個々の教育ニーズへの対応		34 外部専門家の助言を共有する(月1回)	
イ ICT教材の開発とタブレット端末を活用した授業づくりの強力な推進、成果の発信(TOKYOスマート・スクール・プロジェクトの実行)		35 外部専門家の助言、教員研修会実施(好事例の周知)	
(7) スポーツや文化活動の充実	ウ 授業の充実に向けた、ICTサポーター、ICT支援員の活用	36 随時	
	ア 令和6年度教育課程の授業時数、学習内容等の計画的な実施、進捗管理	37 学年主任による適正な授業時数の把握	
	イ 類型ごとの「職業」の指導内容の着実な実施(C類型は週1回PCに関わる授業)	38 通年	
	ア 不登校や心身の健康面で、課題のある生徒への外部専門家、関係機関等との連携による対応	39 拡大学年主任会による把握(隔週1回)随時対応	
	イ 生徒の悩み等に寄り添うことができる環境の整備	40 なんでも相談日の設定と充実(月2回)	
	ア 地域への奉仕活動等によるボランティアマインドの育成を柱とした「学校2020レガシー」の実施	41 清掃活動(年2回)、ボランティアユニホームの活用	
	イ 文化的活動を校外で発表する機会の促進や内容の充実	42 オープンフェスタ、金町駅前等、芸術鑑賞、特別支援学校総合文化祭等	
ウ 生涯スポーツの視点でのスポーツの推進	43 専門家と連携し年1回の実施		
(8) 地域や関係機関と連携と開かれた学校	ア 作業班製品等の販売等とおした、本校教育活動の理解促進	44 金町おうぶんはうす、近隣施設等での販売	
	イ 近隣施設での清掃活動(清掃班)、リサイクル活動(リサイクル班)の実施	45 近隣中学校、近隣幼稚園等(定期的)、近隣地域	
	ア 外部からも分かりやすいホームページ構成の工夫と計画的な更新	46 計画的な年300回更新	
	イ 学校ホームページ、マチコミ(情報配信システム)を活用した迅速、正確な情報発信	47 随時	
	ア 都立学校発達障害教育推進エリアネットワークの推進および相談支援や研修会等の実施	48 ネットワーク機能の構築、研修年1回、相談随時	
(9) 信頼される学校づくり	イ 特別支援学級設置中学校との連携強化と適切な進路指導の支援	49 中学校対象見学会年5回以上	
	ウ 知的障害特別支援学校小中学校との連携強化	50 教員間相互研修(年1回)、学運協への参加	
	ア 公務員としての責務を常に自覚し、生徒や保護者、地域関係機関等に信頼される教職員の育成	51 服務事故等防止研修(年3回) クリーンディスク(学期1回)	
②本人・保護者からの相談等への組織的対応力の強化	イ 高等部教員としての資質向上、若手教員接遇マナーの体得、人権等に関する研修の実施	52 年2回	
	ア 学級担任(主担任)による学級経営力の強化	53 ミニ講座研修の実施(月1回程度)	
(10) 教職員の「ライフ・ワーク・バランス」の推進と「働き方改革」の実現	①ICT機器の利活用による効率的な組織運営と教職員の在校時間の縮減	ア 諸会議のペーパーレス化と効率化を推進	54 随時
	②働きやすい職場環境の醸成	イ 誰もが使える自作プリントやICT教材(アプリケーションソフト)などを共有するデータベースを構築	55 随時
		ア 教員の明確な業務分担と、ライン組織による業務遂行	56 職層に応じた組織体制、業務内容の精選
	(11) 適切な学校経営及び予算執行	イ 教員の抱え込み、指導上の困り感を集約し、教員支援のための情報共有の強化	57 学年主任会(週1回)による支援
		ウ 産業医の指導、助言による職場環境の改善、働きやすい職員室環境の整備	58 安全衛生委員会(月1回)
		ア カリキュラムマネジメントの実施と、着実な学校経営計画の進行管理	59 学校経営計画等進捗確認の連絡会開催(3回)
イ 学校評価や指導計画に基づいた予算編成と適切な時期の着実な予算執行		60 随時	
②行政系職員の専門性を活かした教員との連携・協働による学校経営の充実	ア 行政系職員の専門性(就学奨励費、文書管理等)を活かした職員会議等でのミニ講座の実施	61 年1回以上実施	
	イ 校内危険箇所の早期発見と環境改善の推進	62 随時	

※「教育活動の目標」及び「重点方策」の文末に表記している☆印は、「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画」に基づくものであることを示している。